

【指導の工夫】学びの見通しをもち、生徒自ら課題の解決方法を模索

熊本県立球磨工業高等学校の取組（令和2～3年度国立教育政策研究所研究指定校）

・グラフィックシラバスの活用

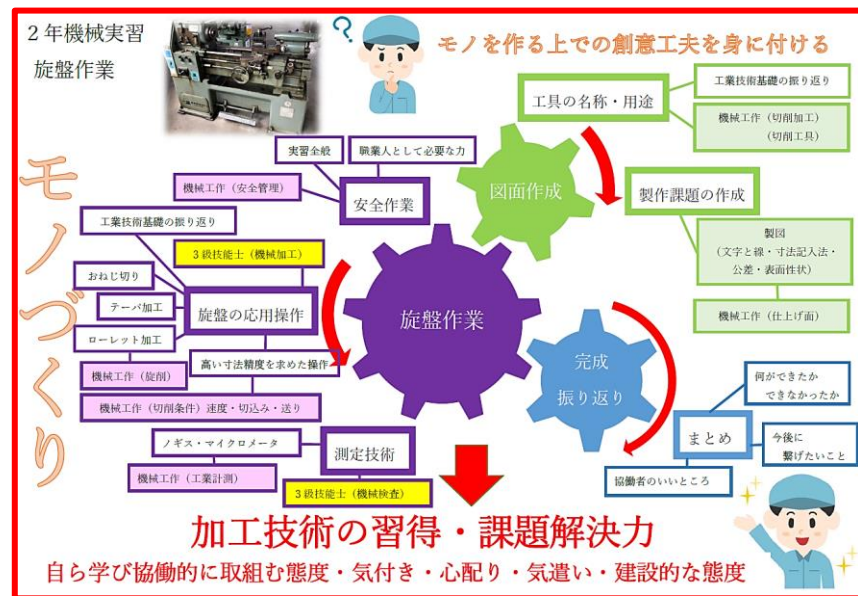
学びの繋がりを視覚化

他教科とのつながり、資格検定とのつながり
自分自身の実現状況を段階的に確認できる

・タスクベースラーニングの実践

「教わる」から「気づき」へ

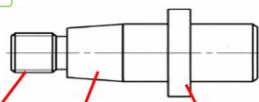
自分で考えつくりあげる達成感
主体性の育成につなげる



グラフィックシラバス(旋盤作業)

1年時から新たな加工要素を加え、生徒自ら課題図を作成(製図)し、加工手順を考え、創造をカタチに繋げる実習展開を実践

参考形状



支給材料



材質:S45C
形状:φ28×100±1
(黒皮ノコ切断)

新たな加工要素
(選択加工条件)
※ 3つの中から2つを選択



ネジ加工

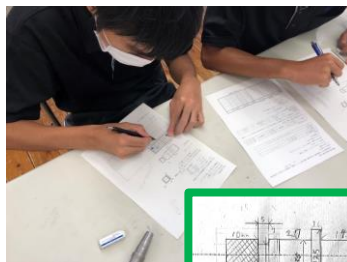


テーパ加工



ローレット加工

タスクベースラーニングの課題



設計図作成と加工手順を生徒による協議により決める



加工(教師は生徒の相談に対しアドバイスをを行う)



生徒による振り返り
(できるようになったことと課題について)